栃木県議会議長賞

税金が支えてくれた挑戦

大田原市立黒羽中学校

３年　生田目　莉央奈

「なぜ、大田原市に住む中学生は無料で３級を受検できるのだろうか。」

この疑問が、私の税金に対する考え方を大きく変えた。そのきっかけは学校で配られたプリントである。私の住む大田原市には、市内の中学生が英検３級を受検する際、市が検定料を全額負担する制度があるという。この制度は受検を迷っていた私にとって、一筋の光となった。

受検を迷っていた最大の理由は、約５千円の検定料だ。「もし落ちたら無駄になってしまう」とためらっていたが、制度のおかげでお金の心配をせず、前を向いて挑戦する勇気をもらえた。その後、合格の知らせを聞いたときには、挑戦して良かったという達成感と、市の制度への感謝で胸がいっぱいになった。それと同時に、一つの疑問が湧いた。

一人５千円でも、市内の中学生分となれば、莫大な費用だ。なぜ市は全額負担できるのか。調べてみると、一つの答えにたどり着いた。それは「税金」である。私の挑戦は、税金によって支えられていたのだ。

これまで私は、税金には様々な種類があり、安心安全な生活に不可欠なものだと学んでいた。しかし、それらを「病院や警察など、社会の安全のために使われるもの」としか捉えていなかった。それが、今回の経験を通して、税金には「私たちの挑戦や未来を応援してくれる」という前向きで明るい役割があると知った。

他にもどんな使われ方があるのか調べると、日本中で子どもたちの未来のために多くの税金が使われていると分かった。最も驚いたのは、中高生の海外留学への支援だ。経済的な理由で諦めることなく世界で学べるよう、渡航費や滞在費を補助する制度が多くの地域で導入されていた。更に、中高生が社会課題を解決するために立ち上げる起業のサポートや、ロボット開発など最先端の科学研究に挑戦するための資金など、大きな夢を直接応援する仕組みにも税金がたくさん使われていると知った。

様々な使い道を調べてみて、税金とは、社会全体が私たちに「失敗を恐れず挑戦してほしい」と願って託してくれた温かい応援のバトンなのだと感じた。今回私は、顔も名前も知らない誰かが一生懸命働いて納めてくれた税金によって新たな一歩を踏み出すことができた。数年後、私も納税をすることになる。そんなときに、次は、挑戦する誰かの背中を押せるような納税者になりたいと思う。私たちの歩む日本の未来が、明るく豊かなものになることを願って。